

ろうきん SDGs Report 2020



Contents

- 1_{page} top message
- 2_{page} はたらく人のくらしを支えてきたろうきんの歩み
- 3_{page} SDGs 行動指針の策定
- 4_{page} 対談：ろうきんと SDGs
(国連広報センター 根本かおる所長×全国労働金庫協会 中江理事長)
- 8_{page} ろうきんが取り組む SDGs (5P)

SDGs (Sustainable Development Goals) とは

世界では環境汚染や格差問題など、全世界で取り組まなければならない多くの課題が残されています。2015年、それら様々な課題に対して、17のゴールと169のターゲットからなる国際開発目標「SDGs(持続可能な開発目標)」が国連において日本を含む世界193カ国の合意のもと採択されました。SDGsは2030年までに達成すべき目標とされ、わが国でも2016年、政府に「SDGs推進本部」が設置され、国や自治体、企業やNPO、市民、さまざまな人々を巻き込んで「SDGs」目標達成のための活動が始まっています。

	貧困をなくそう		人や国の不平等をなくそう
	飢餓をゼロに		住み続けられるまちづくりを
	すべての人に健康と福祉を		つくる責任 つかう責任
	質の高い教育をみんなに		気候変動に具体的な対策を
	ジェンダー平等を実現しよう		海の豊かさを守ろう
	安全な水とトイレを世界中に		陸の豊かさを守ろう
	エネルギーをみんなに そしてクリーンに		平和と公正を すべての人に
	働きがいも 経済成長も		パートナーシップで 目標を達成しよう
	産業と技術革新の 基盤をつくろう		

<編集方針>

この「ろうきんSDGsレポート」は、全国のろうきんが実践しているSDGsに貢献する活動を紹介し、会員をはじめとした様々なステークホルダーとの「共感の輪」を広げていくための報告書です。主に2019年度の活動を中心に紹介しています。



全国労働金庫協会
理事長 中江 公人

読者の皆様、「ろうきんSDGsレポート2020」へようこそ。

ろうきんは、勤労者による勤労者のための金融機関として、今からちょうど70年前に誕生しました。以来、「働く人の夢と共感を創造」し、「共生社会の実現に寄与する」との理念のもと、常に、勤労者に寄り添い、時代の変化とともに住宅や教育の資金、資産形成など勤労者のライフプランに応じた多様なニーズに応じてまいりました。その一方で、多重債務に苦しむ勤労者やリーマンショックで失業を余儀なくされた勤労者、度重なる自然災害の被災者など、生活や雇用に困難を抱えた人々の支援に取り組んできました。

さらに現在、新型コロナウイルスの影響を受けた方々の生活支援に取り組んでいます。

こうしたろうきんのこれまでの歩みやろうきんの理念・役割は、SDGsの「誰ひとり取り残さない」との基本的考え方とまさに合致するものです。このような認識に立ち、昨年3月に、「ろうきんSDGs行動指針」を策定し、業態をあげて、SDGsの達成をめざすこととしました。

今日、勤労者を取り巻く社会は、気候変動、貧困の連鎖や格差の拡大、社会的孤立など、多くの困難な課題に直面しています。この複雑化・多様化する社会課題に対処するためには、「公助」や「自助」とともに「共助」の役割が一層、重要なものとなっています。こうしたなか、社会全体で、働くことやくらしの安心を支えるセーフティネットを構築することが求められています。

そのために、ろうきんは共助のネットワークと金融機能を活かしながら、勤労者の大切な資金を「意思のあるお金」として、持続可能な社会の実現のために使うという流れをつくりだしていきます。

今回のSDGsレポートでは、この約1年間、全国のろうきんにおいて、地域に根ざし、労働組合や生協など他の協同組合、労働者福祉に関わる団体、NPO、自治体などと連携して行ってきた様々な活動を紹介しています。是非、ご一読いただき、率直なご意見・ご感想をお聞かせください。皆様の声を今後の取組みに活かしてまいります。

同じ志を持つ多様なセクターが協働し、力を合わせれば、足し算以上の効果をもたらします。持続可能で包摂的な社会の実現に向けて、様々な立場、役割を担う組織や個人が各々、その思いをつないでいくことで、それはやがて社会を変える大きな力となっていくことでしょう。

その「つなぐ」輪のなかで、ろうきんは、確かな役割を発揮してまいります。

本レポートが、SDGsへの共感を社会に広げる一助になることを切に願っています。

SDGs達成に貢献するろうきんの社会的課題への取り組み

はたらく人のくらしを支えてきたろうきんの歩み

ろうきんの設立経過や「ろうきんの理念」、「ろうきんビジョン」は、SDGsのスローガンである「誰一人取り残さない」、全ての人々が必要な金融サービスにアクセスでき利用できる状況をめざす「金融包摂」、と合致するものです。これからも労金運動を推進し、SDGs17ゴールの達成に向けて貢献していきます。

【 労金運動から連なるSDGsへの貢献 】

- 1950年 勤労者の生活を支えるため、勤労者自身の手による労働金庫が設立
- 1972年 勤労者の資産形成を支える財形の取扱開始（現在は取扱件数・残高ともに1位）
- 1983年 全国で「サラ金対策キャンペーン」を実施
- 1995年 阪神・淡路大震災を受け緊急融資制度と震災遺児支援定期を創設
- 1997年 「ろうきんの理念」を策定
- 2000年 金融界初 NPO 向け融資制度を創設
- 2005年 消費者教育誌「マネートラブルにかつ!」発行「ろうきん森の学校」を開校
- 2006年 勤労者のお金に係る諸問題に対応する生活応援運動の取り組みを開始
- 2008年 リーマンショックを受けて「就職安定資金融資」取扱いを開始
- 2010年 労金連合会がSRI(社会的責任投資)原則制定
- 2011年 東日本大震災の復興支援「21世紀金融行動原則」へ署名
- 2014年 「ろうきんビジョン」を策定
- 2015年 労金協会と日本生協連との間で「緊急災害対策等に係る相互連携協定」を締結
- 2016年 熊本地震の復興支援
- 2017年 労金連合会が国連提唱の「PRI(国連責任投資原則)」へ署名
- 2019年 「ろうきんSDGs行動指針」を策定
- 2020年 『ろうきんSDGsレポート2020』を発行



最初のろうきん設立
(1950年)

ろうきんの理念

ろうきんは、働く人の夢と共感を創造する協同組織の福祉金融機関です。

ろうきんは、会員が行う経済・福祉・環境および文化にかかわる活動を促進し、人々が喜びをもって共生できる社会の実現に寄与することを目的とします。ろうきんは、働く人の団体、広く市民の参加による団体を会員とし、そのネットワークによって成り立っています。

会員は、平等の立場でろうきんの運営に参画し、運動と事業の発展に努めます。

ろうきんは、誠実・公正および公開を旨とし、健全経営に徹して会員の信頼に応えます。

ろうきんのビジョン

～人々が支え合う共生社会の実現のために～

会員との連携を一層強固なものとし、勤労者にもっとも身近で信頼される協同組織の福祉金融機関としてその真価を発揮します。

1. 勤労者の生活を生涯にわたってサポートします。
2. 非営利・協同セクターの金融的中核としてその役割を発揮します。
3. 人と人、人と地域をつなぐことを通じて、「共生社会」の実現に貢献します。

ろうきんSDGs行動指針の策定

ろうきんでは、SDGsの17ゴール実現に向けた取組みを展開するにあたり、2019年3月に「ろうきんSDGs行動指針」を策定しました。労金運動を通じた勤労者の生活向上というろうきんの使命を徹底追求することを通じて、SDGs達成に貢献していきます。

〈ろうきんSDGs行動指針〉

勤労者の生涯にわたる生活向上サポート

〈ろうきん〉は、「ろうきんの理念」とそれを実現するための「ろうきんビジョン」に基づき、勤労者のための非営利の協同組織金融機関として、勤労者の生涯にわたる生活向上のサポートに取り組んでいます。〈ろうきん〉は、こうした活動をさらに強化・徹底し、勤労者を取り巻く様々な社会的課題の解決に取り組むことを通じて、SDGsの達成をめざします。

労金運動やESG投資の実践を通じた 「意思のあるお金」による 社会的好循環の創出

〈ろうきん〉は、勤労者の大切な資金を、勤労者自身の生活向上のための融資や、社会や環境等に配慮したESG投資などに役立てることを通じて、持続可能な社会の実現に資するお金の流れをつくりだしていきます。

非営利・協同セクターとの 連携強化による社会課題の解決

〈ろうきん〉は、労働組合・生活協同組合などの会員や労働者福祉に関わる団体、協同組織・NPO・社会福祉法人・社団・財団などの非営利・協同セクター、自治体などとのネットワークを強化し、連携して地域における福祉・教育・環境・自然災害などの社会的課題の解決に取り組んでいきます。

SDGsの達成に向けた 「共感の輪」の拡大

〈ろうきん〉は、SDGs達成に向けた様々な取組みやその成果を発信し、〈ろうきん〉を利用することがSDGs推進につながっていくことを会員や勤労者など広く社会に伝えることにより、SDGs達成に向けた共感の輪を広げていきます。



「SDGs とろうきん ～ろうきんのSDGs達成に向けた取組み～」は労金協会 Web サイトでご覧いただけます。

HP ▶ <https://all.rokin.or.jp/about/sdgs.html>



対談：ろうきんとSDGs

SDGsは世界の共通言語、「意思のあるお金」で持続可能な社会を実現する

なぜ、いまSDGsなのか
—地球の存続を脅かす切迫感—

中江

この度、ろうきんSDGsレポートを創刊するにあたり、2018年6月の全国のろうきんの幹部向けセミナーで、根本さんのSDGsの講演に感銘を受けた職員たちの強い要望もあり、対談をお願いすることになりました。私自身、根本さんの講演をきっかけに、SDGsのことを知れば知るほど、「SDGsこそろうきんが取り組まなければならないテーマだ」という思いに至りました。

SDGsの「誰一人取り残さない」との考え方は、ちょうど70年前に誕生したろうきんの設立経緯や理念・ビジョンとまさに合致します。そこで、2019年3月に「ろうきんSDGs行動指針」を策定し、業態をあげてSDGsに取り組むこととしたものです。

根本氏（以下、敬称略）

そのセミナーでは、特に気候変動、格差の拡大、ジェンダー平等に力点を置いて話をしました。その当時としては、経営層向けに講演した先駆的な機会でした。

中江

そうでしたね。はじめに、このSDGsレポートの読者やろうきんの役職員に向けて、「なぜ、いまSDGsなのか」について、改めて伺いできますか。

根本

SDGsが生まれた背景には、このままでは私たちが当たり前のように享受しているこの地球の豊かさを将来に繋いでいくことができない、という切迫感があります。

2000年には、SDGsの前身となる主に途上国が取り組むMDGs（ミレニアム開発目標）が採択されました。このMDGsは2015年までの目標ですが、先進国はODAを中心とした国際協力という文脈でのかわりであり、先進国が自分達の課題として取り組むものではありませんでした。

MDGsは一定の成果を生みました。例えば、世界の貧困人口の割合は、1990年の36%程度から2015年には10%程度までと、MDGsの目標である「半減」以上の成果ができました。しかし詳しくみると、そのほとんどが中国の貧困人口の減少によるものであり、サハラ砂漠以南のアフリカでは、ガバナンスの問題や自然災害、紛争の長期化などが複雑に絡み合って、思うように成果が出ませんでした。

そして、21世紀に入って地球の存続を脅かすような新たな脅威も増えてきたわけですね。それが、気候危機、格差の拡大、不平等感、権威への不信感、紛争の長期化・増大などです。これらは、国境をやすやす

と超えてしまう課題であると同時に、先進国が原因を作っている部分もあります。そこで、先進国・途上国を分けず、すべての国が当事国として取り組む世界目標が必要であると、2012年から3年かけて加盟国のみならず企業やNGO、市民も含めて議論してまとまったのがSDGsなんです。

中江

地球の存続を脅かす切迫感があったということですが、2020年1月のダボス会議でも、気候変動がずいぶん話題になったようですね。

根本

今年のダボス会議は、気候危機、格差の拡大などの問題について、グレタ・トゥーンベリさんら若い代表も交えて、解決策を様々なステークホルダーで模索するような会議でした。

これまででは、経済界の重鎮が集まって、主に経済政策について話し合う場でしたが、今や環境も社会も経済も不可分だとして、以前であれば「環境」という分野のみに関わる課題とみなされていた分野も、世界全体にとっても喫緊の課題として話し合われたわけですね。

国連広報センター
所長 根本 かおる 氏



格差や貧困があるのは、時代の空気を映し出している写し鑑

中江

先般、アカデミー賞作品賞を受賞した韓国映画「パラサイト」も、格差や社会の分断が描かれており、今の世界の課題を象徴しているような映画でした。

根本

「パラサイト」は興味深く拝見しました。昨年上映された「ジョーカー」も貧困層の行き場のないやり場のない若者の姿が描かれていました。

邦画「天気の子」の新海誠監督と会談しました。新海監督も同じように、主人公2人が「貧困層」にいることに触れ、時代が作品に写るとおっしゃっていました。

中江

根本さんは、国連広報センター所長として、SDGsの啓発・普及に飛び回ってこられました。この5年間の手応えはどうか。世界の中の日本の取組み状況をどのように見えていますか。

根本

おかげさまで、SDGsのブランディングはずいぶん浸透してきましたね。少なくとも東京では、SDGsのピンバッジを付けている方とすれ違って何回も驚きではなくなりました。

企業の動きをみると、本業とSDGsのゴール・ターゲットとの関係をマトリクスに落とし込んで、報告書やWebサイトで見せる場所は多いです。しかし、2030年の高みに向かって本業を通じて何ができるのかというところから、計画や戦略づくりまで落とし込

んで牽引するところまで進んでいる企業はまだまだ少数だと感じます。

中江

ろうきんもまだまだ2030年の高みに向けて牽引するようなどころまで行っていません。

今、日本にも環境や社会への配慮が企業の評価を左右するような流れが出来てきていると感じています。そういうなか、私たちは単なるCSRではなく、経営の中心にSDGsを位置付ける必要があると考えています。

ろうきんだからこそ「金融包摂」への期待

根本

そういう意味でろうきんに期待したいのは、「誰一人取り残さない」というところですね。これは、SDGsの大原則になっていて、人が人であるがゆえに享受することができる人権です。

ろうきんは、勤労者一人ひとりが豊かで健やかな暮らしを営めるよう金融面で包摂して支えるというモットーに則った業態ですから、成り立ちそのものがSDGsと非常に親和性があり、早くからSDGsに振り向いていただき、良いかたちで進んできていると思います。

中江

ろうきんはSDGsと親和性があると言っていたしましたが、私たちが気を付けなければならないのは、私たちの取組みそのものがSDGsだと思えば、それは傲慢だし、そこはちゃんと意識をもって一段と踏み込んだ取組みをしていかなければならないということです。

設立100周年を迎えたILOが、2019年3月に日本のろうきんを取り上げたレポートを出しました。そのなかでも、ろうきんに対しvulnerable workers（社会的に弱い立場にある勤労者）への金融アクセスを拡大していくことについて、強い期待が示されているんですね。

私たちはその金融機能を活かし、SDGsのなかでも、特に「金融包摂」にこだわりたいと考えています。

根本

金融包摂の観点で、非正規雇用で働く方や外国人に対しては、どのようなアプローチを行っていますか。

中江

会員である労働組合と連携しながら、パート・有期雇用・派遣などの雇用形態で働く勤労者に対し、計画的な貯蓄の推奨や、生活資金の融資、相談活動などを行っています。また、外国人労働者が増加するなか、外国人労働者が円滑に口座開設できるような体制整備にも取り組んでいます。

ただ、労働組合が組織されていない企業で働く勤労者へのアプローチについては、まだ十分とは言えない状況です。ろうきん設立の原点に立ち返って、生活や

全国労働金庫協会

理事長 中江 公人





雇用に不安を抱えた勤労者の方に、より丁寧に目を向けていかなければなりません。

あるろうきんの先輩の方から、「ろうきんは融資したらそれで終わりではない。むしろ返済のサポートをはじめ、融資をしてからこそが、ろうきんらしさを発揮するときだ。」と言われたことが今も心に残っています。

根本

ろうきんがこれまで実践してきた様々な取り組みから見てくる時代のトレンドのようなものはありますか。

中江

ろうきんは、これまで勤労者の多重債務問題に積極的に取り組んできました。2000年代には労働者福祉中央協議会や弁護士団体と連携し、貸金業の規制強化の実現に貢献しました。

その結果、多重債務問題は改善されましたが、近年では借りやすいなどの理由から、銀行カードローンが増加し、自己破産も出るなど、問題再燃への懸念が高まっています。これに対し、労働組合との連携を通じた低利なろうきんカードローンへの借換えを推進し、会員組合員の可処分所得向上、生活応援に取り組んでいます。

「意思のあるお金」で社会を変える

中江

最近では、ESGを重視したマネーの流れが大きな潮流となってきています。持続可能な社会の実現のために、「意思のあるお金」の流れを作っていくことが私たちの大きな課題だと思っています。

2017年には、ろうきんの中央金融機関である労金連合会が、国連が提唱するPRI（責任投資原則）に署名しました。2019年には、労金連合会内に「ESG投融資推進委員会」を立ち上げ、独自のスコアリングで選定したESG優良企業への投資や、グリーンボンド・ソーシャルボンドの購入を積極的に行っています。

根本

そのような「意思のあるお金」としてのESG投資の

手法やパフォーマンスを公表し、迷っている方々の背中を押して裾野を広げていってほしいですね。

中江

「意思のあるお金」の流れを作っていくうえで、もう一つ大事なことは「パートナーシップ」ですね。ろうきんには、労働組合や他の協同組合・NPOといったろうきんならではのネットワークがあります。ろうきんだけでは解決することができない社会課題もたくさんあるので、このネットワークをいかに活用するかが重要です。

フェリシモの矢崎社長は、全国の顧客からの寄付で世界中の森林の再生に取組むなど、顧客とともに社会を変えようと多彩な取組みをされています。

「バレンタインのチョコレートを買って社会貢献」という記事が出ていましたが、これは児童労働をさせていないといった条件を満たしている産地のチョコレートなんです。

ろうきんでも、エコ推進や子供たちの未来応援などに預金者の利息相当額を寄付する「社会貢献預金」の取組みなどを行っています。持続可能な社会の実現に向けて、単なる金融機関と預金者、生産者と消費者といった関係を超えた連携を進めることが重要だと思っています。

根本

クレジットカードのポイント交換では、児童虐待防止のための活動や環境保護などの様々な社会活動に寄付できる仕組みがありますが、どこにしようかなと選ぶのが楽しみです。一人ひとりのちょっとした取組みが、やがて大きな力になっていくということですね。

取組みにストーリーが見えるとよいですね。表面的に何かいいことをしているだけじゃなくて、例えばサプライチェーン全体でSDGsの実施が主流化しているといったことが大事ですね。

女性活躍推進やジェンダー平等の観点では、どのような取組みを行っていますか。

女性活躍の「見える化」が大切

中江

時代とともに働く女性の方が増加するなか、各ろうきんでは女性職員が中心となって、働く女性を応援するプロジェクトチームを作り、女性向けの商品・サービスの開発や提供を行っています。その中で、シングルマザーやパートで働く方向けのローンも展開しています。女性職員ならではの目線や感性が活かされています。

ろうきんは、女性の平均在職年数や管理職比率も比較的高く、女性にとって働きやすい職場だとの声も多く聞かれます。しかし、役員に占める女性の割合はまだ、ごく僅かです。女性活躍はろうきんらしさを発揮していくための一つの大きなカギだと思っています。

根本

女性職員が多い職場は、様々なビジネスチャンスを感じ取って、ビジネスに繋がられる土壌があると思います。

そのためには、女性活躍の「見える化」も大切です。自分たちの職場の健康診断として「測る」、そしてそれを「開示」することが重要だと思うんですね。開示することによって、世間や同業他社から見られ、お互いにプレッシャーをかけ合って、更なる高みをめざすことにつながるわけですね。

世界的にみて、男女の同一賃金を実現するためには、今のままいくと257年も必要との試算があります。そんなに長く待ってられないので、様々な企業・団体に結果を出していただきたいですね。

ろうきんは、勤労者のための金融機関として、ディーセント・ワークは欠かせないテーマだと思いますが、ろうきんの中での労働環境の改善などについて、どういう施策をとっていますか。

中江

労働金庫であるからには、ディーセント・ワークの実現において先頭を走る金融機関でなければならないという思いがあります。

私はよく「CSの前にESを。CSのためにもESを。」と言うのですが、職員一人ひとりが働きがいを感じ、職場に満足していなければ、ろうきんらしい心のこもった温もりのあるサービスも、社会のため、勤労者のための施策も望めません。

そのために、2019年9月に「労働金庫にふさわしい組織風土の確立に向けた基本方針」を策定しました。基本方針では、あらゆるハラスメントの根絶も謳っています。

日本国内では、ハラスメントに関するILO条約の批准には至っていませんが、ろうきんでは、国内法より厳しいこのILO条約を踏まえた規程の整備に向けて作業をしているところです。

根本

SDGsの取り組みで頑張ったところについては、私たちとしてもグローバルな発信のお手伝いをし、それが逆にプレッシャーとなって、さらなる推進へとつながることを期待しています。

国を待たない、自分たちでできることはやる

中江

根本さんが講演で強調しておられたことですが、ろうきんの役職員約1万1千人が「自分事」としてSDGsに取り組むことが大事だと思っています。

SDGsは、ろうきんの役職員一人ひとりが、ろうきんの理念や存在意義を改めてグローバルな視点から見つめ直す良い機会にもなっています。

根本

それは嬉しいです。自分たちの足許の取り組み、ある

いは地域での取り組みというものと、世界レベルの議論・課題は線で結ばれていると自覚することで、視野が広がると思うし、やりがいにも繋がるでしょう。

SDGsという世界の共通言語に乗せて皆さんの取り組みを発信すれば、それに取組んでいる様々なステークホルダーにも受け止めてもらえ、広がっていくのではないのでしょうか。

中江

本日は、いろいろと大変立腹に富んだお話をいただきました。最後に、ろうきんが今後SDGsに取り組んでいくにあたってどういう点を注意すべきか、心がければいいかについてお伺いできますか。

根本

先ほどの、ILOの暴力とハラスメントに関する条約の精神を汲んだ規定を皆さんでお作りになる、「国を待たない、自分たちでできることはやる」という姿勢に感銘を受けました。

SDGsは、そういうふうな世界の課題と直接つながることのできる枠組みなんですね。国を待たなくても、一組織のアクションとして行動し、それが世界の議論につながっていく、そういった勇気ある経営をどんどん行っていただければと思います。

中江

力強いメッセージをありがとうございます。とても勇気づけられました。

私たちは、2030年に向けて結果を出すことにこだわりたいと思っています。そのためには、経営トップが常にSDGsへの強いメッセージを発信し続けることが大事ですし、職員に対してもSDGsマインドを持ち、自ら面白いアイデアを出してくれることを期待しています。

もとより、ろうきんだけで出来ることは限られています。同じ志を持つ仲間をどんどん巻き込んでいく、まさにラグビー日本代表の「つなぐ」精神で取り組んでいきたいですね。



ろうきんが SDGs

金融包摂

はたらく仲間が抱える様々な
悩みや不安に寄り添うろうき
んらしい金融包摂の取組み

金融経済教育

マネートラブルや多重債務
に陥らないための金融リテ
ラシー向上の啓発活動

女性・子育て応援

はたらく女性や家族を応
援し、未来を創造するた
めの金融商品サービス提供

PEOPLE 人間



Sustain
Developm
持続可能な



PLANET 地球



地球環境の保全

地域に根ざした継続的な環境
保全活動や未来に向けた環境
教育活動

PARTNERS パートナーシップ

ディーセント・ ワークの実践

ろうきんの役職員がやりが
いと責任をもってSDGsに
取り組むための職場環境整備

利用者との 二人三脚

ろうきんの利用が社会課題の
解決につながる「利用者と二人
三脚で歩む」しくみづくり

取組む (5P)



PROSPERITY 豊かさ

被災者支援

予期せぬ自然災害への備え
や被災者の生活再建に向け
た包括的な支援活動

勤労者の生活支援

ディーセント・ワーク（働き
がいのある人間らしい仕事）
を支える生活応援運動

共生社会の実現

すべての人がお互いを尊重
し、理解し合いながら共に
支え合う社会の実現



PEACE 平和



犯罪防止

ろうきんを安心・安全に利
用できるための環境整備や
金融犯罪防止活動実施

ESG投資

環境・社会・ガバナンスを
考慮した投融資による持続
可能な社会づくり

協同組織や 行政との連携

地域で活躍する協同組合や
行政機関とともに社会課題
の解決をめざす連携事業



“5つのP”を支える取組み実績報告

PEOPLE 一人間



ろうきんは、年齢・性別・雇用環境・経済的地位などの違いによって、貧困や社会的孤立に陥ることがなく“金融包摂”の実践により、誰もが健康で安心して働き暮らせる社会の実現をめざしています。そのために、勤労者の様々な生活資金ニーズに応えるろうきんらしい金融商品サービスを提供するとともに、勤労者が自立で安心かつ豊かな生活を送るための金融知識と判断力を高める金融経済教育に取り組んでいます。

新潟 ろうきん

労働組合に加入している臨時・パート等の働く方が ご本人のみでご利用いただけるローン制度「ぱあとな〜」

新潟ろうきんでは、「金融包摂」の考え方にに基づき、臨時・パート等で働く方のお子様の教育費用やマイカー購入などの生活資金ニーズに広く応えていくために、収入や勤続年数に応じてローンのお申込みがいただける融資商品「ぱあとな〜」を会員組合員対象に提供しています。ご利用いただいた方々からは、「年収が150万円に満たなくても『ぱあとな〜』を活用することで、一人でローンを組むことが出来るようになり助かりました。」「勤続年数が1年未満でしたが、通勤にどうしても車が必要だったので相談したところ、融資を受けることができ、快適に通勤できるようになりました。」などのお声をいただいております。



中央 ろうきん

「中央ろうきん助成制度”カナエルチカラ”」

中央ろうきんでは、誰もが生きるたのしみと、働くよろこびを享受できる地域社会の創造へ向けて、中央ろうきん1都7県で、生活者・労働者の視点に立ち、参加や協力をベースとした新たな自主事業の開発と創造に取り組む市民団体を応援する市民活動助成制度「中央ろうきん助成制度“カナエルチカラ”～生きるたのしみ、働くよろこび～」を創設しました。広く“ひと・まち・くらし”づくりに役立つ発想豊かな活動や働く人が直面するさまざまな課題に対して多様な働く場・機会の創出に取り組む市民団体を支える取組みを行っています。



九州 ろうきん

返済計画の見直しをサポートする 奨学金借換専用ローン「つなぐ」

九州ろうきんでは、臨時・パート等で働く人を含む全てのはたらく人を対象とする低利な奨学金借換専用ローン「つなぐ」を提供しており、労働者福祉協議会（労福協）や労働組合と連携し、日本学生支援機構の奨学金返済の猶予制度のご案内、返済が滞っている方に対するセーフティネット（弁護士・司法書士）への取り次ぎなどの相談活動にも取り組んでいます。全国のろうきん（北海道、東北、中央、北陸、東海など）でも、奨学金の返済額や返済期間を見直したい、子どもの奨学金を借換してあげたい、といった奨学金の返済などで悩みを抱える方のために奨学金借換専用ローンを提供しています。



長野
ろうきん

女性応援プロジェクト 「ろうきんchou-chou [シュシュ] シリーズ」

長野ろうきんでは、はたらく女性の支えになり、子育てをしている女性に安心して子どもの将来を考えてもらいたいとの思いから、はたらく女性を応援する積立商品「わたしの積立ろうきんchou-chou」、カードローン「ろうきんchou-chouカード」、シングルマザー応援ローン「ろうきんchou-chou YELL」を提供しています。これらのろうきんchou-chouシリーズは、積立額やローン残高に応じて公益財団法人日本対がん協会「ほほえみ基金」に寄付を行うことで、ピンクリボン運動にも繋がっています。

その他にも、託児所を設置した資産運用マネーセミナー「ろうきんchou-chou Happyスクール」を開催するなど、子育てで忙しい女性でも気軽にゆっくり参加していただけるような様々な取組みを進めています。



沖縄
ろうきん

働きながらの不妊治療を支える 妊活サポートローン「Hug-Kumi(はぐくみ)」

沖縄ろうきんでは、不妊治療を対象とした妊活サポートローン「Hug-Kumi(はぐくみ)」を提供しています。

不妊治療は、期間の見通しが難しく、身体的・経済的な負担が大きいことはもとより、治療を知られたくないといった精神的な負担も伴います。このローンは、不妊治療に関する職員研修を実施し、原則として同性の担当者が対応するなど、相談や申込がしやすい体制を整備するとともに、提出資料の簡素化や、必要な時に必要な金額だけATM等でお金を引き出すことができるカードローン型商品とすることで、不妊治療における様々な負担に配慮しています。

また、このローンのリーフレットは、商品概要の説明だけでなく、不妊治療への理解を深める内容になっており、不妊治療に取り組む方が安心して働き続けられる職場環境づくりにも取り組んでいます。



静岡・九州
ろうきん

特別支援学校や児童養護施設への図書寄贈

静岡ろうきんでは、2019年度より新たに、子育て支援活動の一環として、静岡県内の県立特別支援学校全23校に各学校からリクエストいただいた合計214種類(277冊)の図書「ロッキーブック」を、担当の営業店が特別支援学校を訪問し、贈呈式を開催して直接手渡しています。「ロッキーブック」には、労金運営委員や職員が生徒の皆さんに向けてメッセージを記したステッカーを1冊1冊に貼付けています。各学校からは「事前に希望図書を聞いてくれ、リクエストに答えてくれたことがとてもうれしい」「図書を活用した授業も多く、寄贈図書は、生徒に紹介していきたい、きっと大人気になる」「高等部卒業後は、社会に出て就労する生徒も多い。お金に関する知識が乏しい生徒も多いため、今回の寄贈をきっかけに生徒向けの消費者教育等も検討していきたい」などのお声をいただいております。

また、九州ろうきんでは、子どもたちの成長を応援する活動として、2011年より九州各県の児童養護施設に年2回(七夕とクリスマスの時期)、子どもたちが希望する図書を寄贈しています。取組み開始から2019年12月末までに、合計10,917冊を寄贈しています。子どもたちからいただいたお礼のメッセージは、地域のみなさまとともに成長を見守ることを目的に最寄りの営業店に一定期間掲示させていただいています。



PROSPERITY — 豊かさ



ろうきんは、勤労者の計画的な資産形成支援をサポートし、ライフステージにおける多様な資金ニーズに応えることで、全ての勤労者とその家族が安全・安心、豊に暮らせる社会づくりとディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）の達成をめざしています。また、誰一人取り残さない“金融包摂”の観点から、自然災害で社会的・経済的に困難な状況に置かれた勤労者や被災者への支援、年齢や障がいの有無、住まいの地域にかかわらず、すべての人に利用しやすいインフラ整備・金融アクセスの改善に取り組んでいます。

全国のろうきん 勤労者の生活を支える資産形成のサポート

全国のろうきんでは、勤労者の生活を守り向上させるため、創立以来一貫して自助努力による計画的な貯蓄を推奨してきました。1971年に財形制度がスタートしてからは、「ろうきん財形」を中核的な商品と位置付け、労働組合と連携して積極的に加入を呼びかけることで組合員の計画貯蓄を推奨しています。現在（2020年3月末時点）では、契約件数（266万件）、貯蓄残高（3兆8,068億円）ともに業態別第1位となっており、「ろうきん財形」が多くの勤労者の生活をサポートしています。

近年では、NISAやiDeCoといった資産形成を後押しする新たな税制優遇措置が設けられたことに伴って、ろうきんらしい安心安全かつ低コストな商品ラインアップを整備して、税制優遇を活用した資産形成・資産運用を呼び掛けています。資産運用セミナーやWebでの情報提供などにも力を入れており、勤労者に寄り添うきめ細かな資産形成支援に取り組んでいます。なお、2020年3月末時点で、iDeCoの加入者数は17万8,000件を突破し、前年度比5万人以上増加しています。

はたらくあなたの、いちばんそばに。

iDeCo

3つの税制優遇 掛金は全額所得控除! 運用益は非課税! 受け取る時も大きな控除!

詳しくはこちら ▶ <https://rokin-ideco.com/>

0120-320-615 平日 9:00~19:00

全国のろうきん 勤労者のライフステージにおける多様な資金ニーズへの対応

全国のろうきんでは、低利で返済負担の少ないローン商品の提供や無理のない返済計画を提案するなど、働く人とその家族の生活資金ニーズ（住宅・教育・車など）に応えています。さらに、勤労者のための福祉金融機関の社会的役割として、高金利カードローンの借換えや、複数ローンの取りまとめを通じた勤労者の可処分所得向上や生活応援にも積極的に取り組んでいます。また、多重債務やマネートラブルを抱えている方に対しては、弁護士や司法書士と連携して最適な解決方法を探す生活改善にも取り組んでいます。

ろうきんでは、働く人からお預かりした預金は、働く人の生活や夢の実現に必要な融資や勤労者セーフティネットに活用するといった相互扶助に基づく取組みに役立てられています。

はたらくあなたの、いちばんそばに。

ROKIN LOAN

ろうきんならローンも安心金利 お気軽に相談ください

住宅ローン 教育ローン 自動車ローン カードローン

全国のろうきん 金融アクセス改善につながるインフラ整備

ろうきんは、全国13金庫で618店舗（2019年12月末時点）のネットワークを形成し、地域に密着しながらはたらく人の生活を応援しています。ローンセンターでは、平日夕方や休日の相談に対応するなど、はたらく方のライフスタイルに柔軟に対応しています。

また、ろうきんキャッシュカードは、全国のろうきんATMはもちろん、コンビニATMや、JR東日本の駅構内にあるビューカードATMでのお引出しが手数料無料でご利用いただけます。また、全国のゆうちょ銀行やMICS加盟金融機関（銀行・信用金庫等）のATMでもご利用いただけ、お引出しされた際のご利用手数料を即時お戻りする「ATM引出し手数料キャッシュバックサービス」を行っています。（※手数料無料やキャッシュバックの条件は各ろうきんにより異なります。詳細は各ろうきんのWebサイト等でご確認ください。）

さらに、残高や入出金をスマホでチェックできる「ろうきんアプリ」の提供や、スマホ決済サービス「LINEPay」との連携を開始し、住まいや勤務先の地域にかかわらず、いつでも何処でも安心便利に使えるろうきんをめざし、金融アクセスの向上に努めています。



全国のろうきん すべての人にやさしい営業店づくり

全国のろうきんでは、身体の不自由な方や高齢の方など、すべての人に安心して来店・利用いただけるよう、代筆・代読など各種手続きのお手伝いや、点字による残高通知および預金取引明細の発行、視覚に障がいがある方が窓口での振込手続きを希望された場合の振込手数料をATM利用時と同額にするなど、様々な環境づくりを進めています。

新潟ろうきんでは、点字ブロックの敷設や車椅子、聴覚に障がいがある方や、声を出しづらい方のための電子メモパッドを全営業店に設置配備し、障がいがある方の対応についての職員研修を全営業店で実施しています。

静岡ろうきんでは、耳が不自由な方用の聴力補助器具や会話補助ボードを配備し、ご高齢の方にも安心してご来店いただけるよう、全営業店に認知症サポーターの講習を受講した職員を配置しています。



東海ろうきん 働く人へ普段言えない「ありがとう」の気持ちを言葉にする 『「はたらく人にありがとう」メッセージ募集』

東海ろうきんでは、「はたらく人にありがとう」メッセージの募集を2010年度から実施しています。はたらく人への「ありがとう」の想いをつづった心温まるメッセージを募り、多くの方々に読んでいただくことで、「はたらく人への感謝の気持ち」、「はたらくことの意味」を考えるきっかけにしつつ、明日への活力としていただきたいという思いで継続している活動です。第1回から第10回までの通算応募作品数は21,703作品にもものぼります。2019年度は「第10回記念大賞」として、選ばれた作品を題材にショートムービーを制作し、「中日新聞社賞」ならびに「東海ラジオ放送賞」が贈られました。



東北
ろうきん

東日本大震災からの復興支援の取組み

東北ろうきんでは、東日本大震災からの復興・被災者支援に従事するNPOやボランティア団体の活動支援を目的として、2012年10月に「東北ろうきん復興支援助成金制度」を創設しました。2017年度からは、社会貢献活動に従事している団体も対象に加え、毎年10団体に対して1団体あたり30万円の助成金を交付しており、2019年度までに累計80団体、計2,400万円の活動支援を行っています。

その他にも、地元の生産者と学生ボランティアにより企画開発された「山元いちごチョコレートランチ」を景品としたウインターキャンペーン2018を実施しました。景品購入資金の一部は地域復興に繋げることを目的に「宮城県東日本大震災みやぎこども育英募金」に寄付され、被災地支援に役立てられています。



全国のろうきん

自然災害で被災された方への支援

全国のろうきんでは、自然災害（地震・台風・大雨・大雪・大規模火災等）により被害を受けた方に対して、様々な支援活動を行っています。

緊急時には通帳・印鑑等を喪失した方からの預金払戻しの申し出に対して迅速に対応できる態勢を整備しています。被災され住宅ローン等の返済が困難な方には「自然災害による被災者の債務整理に関するガイドライン」に基づいた対応（住宅ローンなどの免除・減額）を行っています。

また、災害救助法の適用を受けた自然災害により被災された方や親族の方を対象に、生活再建に必要な資金にご利用いただける「災害救援ローン」（無担保・固定金利・適用金利 1.00%（保証料込み））を全国のろうきんでご用意しています。

その他にも、ろうきんに開設した義援金受入口座に振込みする場合の窓口手数料を免除することで、会員団体におけるカンパ活動等の取組みをサポートしています。



静岡
ろうきん

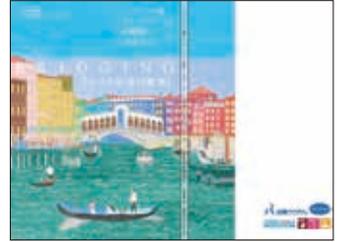
はたらく人のくらしを守る 「地域と連携した自然災害への備え」

静岡ろうきんでは、自然災害時に地域と連携して被災された方々を支援できる環境を整えています。静岡県、特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会、社会福祉法人静岡県社会福祉協議会との間で、営業店の駐車場を無償で貸与する覚書を締結し、巨大地震の災害発生時に静岡県災害ボランティア本部・情報センターの活動拠点が機動的に設置できるよう備えています。また、各営業店には、防災機器用品を設置しているほか、4店舗（富士支店、清水支店、磐田支店、静岡中央支店）の受水槽には、リザーバータンク機能を取り付け、大規模災害発生時の断水に備えています。



近畿
ろうきん

アートを通して豊かな社会づくりをめざす
「エイブル・アート近畿 ひと・アート・まち」



「エイブル・アート近畿 ひと・アート・まち」は、近畿ろうきんとアートとケアの視点から多彩なアートプロジェクトを展開している「たんぼぼの家」の協働事業として実施している活動です。障がいのある人の芸術活動を「可能性の芸術」と捉え、まちと人をアートでつなぎ、豊かな社会づくりをめざすコミュニティ・アートプロジェクトとして、2000年度より開催し、のべ14万人が参加しました。2006年には、幅広い多様な市民の参加により実施している取組みが高く評価され、「メセナアワード2006文化庁長官賞」を受賞しました。2019年度は、これまでのプロジェクトを振り返る展示とフォーラムを開催し、過去19年間の取組みをまとめた記念冊子を作成しました。当取組みは、SDGsの169のターゲットに定められている「障がいのある人の社会的・経済的な包括や働きがいのある仕事づくり」の実現に向けた取組みとして位置付けており、2020年度からは「エイブル・アートSDGsプロジェクト（仮称）」の立ち上げを予定しています。

PEACE — 平和



ろうきんは、犯罪や紛争・テロなどの影響を受けることなく、平和かつ公正な生活環境のなかで、安心・安全に暮らすことができる社会の実現をめざしています。そのために、リスク管理態勢の強化・コンプライアンスの徹底や、金融犯罪の未然防止に向けた様々な取組みを行っています。

全国のろうきん 安心してご利用いただくための
各種犯罪抑止の取組み

全国のろうきんでは、インターネット・バンキングのセキュリティ対策、振り込み詐欺などの特殊詐欺に関する金融犯罪防止啓発活動、反社会的勢力との関係遮断、重大な組織犯罪の資金源であるマネー・ローダリング対策の推進など、各種犯罪の抑止に向けた様々な対策を講じることで、安全かつ安心して金融商品・サービスをご利用いただける環境づくりに努めています。

インターネットバンキング
モバイルバンキング
テレフォンバンキング

個人のお客様向け

ご利用環境・セキュリティ

ご利用環境

▶インターネットバンキング
パソコン・スマートフォン・タブレットからご利用いただけます。
ご利用いただける端末(パソコン、スマートフォン等)のOS・ブラウザの最新情報は、「ろうきんダイレクト」ホームページをご確認ください。

▶モバイルバンキング
以下のいずれか1台のみご利用いただけます。
① iモード対応の携帯電話(NITドコモ)
② EZweb対応の携帯電話(KDDI)
③ Yahoo!ケータイ対応の携帯電話(ソフトバンク)
※Android対応の携帯電話端末の場合は、インターネットバンキングのご利用はできません。
※携帯電話の機種によっては、ご利用いただけない場合があります。
※iモードは、株式会社NTTドコモの登録商標です。
※EZwebは、KDDI株式会社の登録商標です。
※Yahoo!は、米国Yahoo! Inc.の登録商標または商標です。

▶テレフォンバンキング
①プッシュ回線・ダイヤル回線のいずれもご利用いただけます。ただし、ダイヤル回線をご利用の場合はトーン番号を発信できる電話機をご利用ください。
②スマートフォン、携帯電話からもご利用いただけます。

セキュリティ(インターネット・モバイルバンキング)

▶セキュリティ強度の高い暗号化方式
お客様の重要な情報が盗まれたり、故意に書き換えられることがないように、セキュリティ強度の高い暗号化方式を採用しています。

▶ワンタイムパスワード
固定式パスワード(ログインパスワード・確認用パスワード)に加え、お客様の端末(スマートフォンまたは携帯電話)に表示されるワンタイムパスワードによる本人認証をご利用いただけます。
資金移動等のお取引時にお客様の端末(ワンタイムパスワード)が必要になりますので、第三者からの不正送金被害を防止することができます。

▶届出電話番号認証
ろうきんダイレクトに届出いただいているお客様の電話番号から「ろうきんダイレクト」の画面に表示された「認証用電話番号」へ発信することで、本人認証を行います。

▶追加認証(リスクベース認証)
第三者からの不正利用を防止するため、「普段と異なるご利用環境」(端末情報、回線情報等)と判断した場合、お客様ご本人であることを確認するため、事前に登録いただいた質問に対してご回答いただく追加認証を行います。

▶ソフトウェアキーボード
インターネットバンキングでログインパスワード・確認用パスワードを入力する時に、ソフトウェアキーボードをご利用いただけます。キーボードを打撃せずに入力いただけますので、キーボード入力情報の盗取(キーロガー)を防ぐことができます。

▶EV-SSL証明書
フィッシングサイトへの対策として「EV-SSL証明書」を採用しています。EV-SSL証明書で保護されているURLにアクセスすると、パソコンのアドレスバーが緑色に変わります。

▶電子メールの送信
各種お取引を受付した際に、取引結果等の確認メールを登録メールアドレスに送信します。

▶自動タイムアウト
インターネット・モバイルバンキングでログイン後、一定時間操作がない場合、自動的にログアウトします。

16

PLANET — 地球



ろうきんは、気候変動や生物多様性などの地球環境問題について、地域に根ざした環境保全活動や、責任ある投融資、事業活動での環境配慮などを通じて貢献していくことをめざしています。環境保全活動では、各地域で活動するNPOと協力した里山再生や環境教育、地域の美化・環境保護活動などにも取り組んでいます。

全国のろうきん

森を育み、人を育み、森で遊ぶ 「ろうきん森の学校」

労金連合会は、豊かな森の再生と環境問題に取り組む人材育成をめざして、2005年に「ろうきん森の学校」を開校しました。労金連合会が活動資金を支援し、NPO法人ホールアース研究所を全国事務局として全国5地区（富士山、福島、新潟、岐阜、広島）のNPOと協力しながら、森と人と地域を育む活動を展開しています。

2015年には、長期にわたり継続して支援してきたことが評価され、「国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）」が推奨する連携事業に認定されました。

開校から2020年3月までに、のべ20万人を超える方々が「ろうきん森の学校」の活動に参加しています。

<「ろうきん森の学校」の3つの柱>

- 森を育む（植樹、間伐、下刈り等の森林整備活動）
- 人を育む（森づくりや環境教育リーダーの育成）
- 森で遊ぶ（里山を活用した自然体験・環境教育プログラムの開発と実施）



静岡 ろうきん

環境保護活動への参画・支援

静岡ろうきんでは、「富士山麓育林活動」や「安倍川流木クリーンまつり」などの地域の美化・環境保護活動への参画や、一部の営業店では地域の環境保護活動への参加や「道路サポーター」として周辺道路の清掃活動などにも取り組んでいます。

その他にも、無担保ローン『役立宣言』4商品のご契約1件につき50円を静岡県地球温暖化防止活動推進センターへ寄付しています。2019年度は445,800円を寄付し、これまでの寄付金の累計は約884万円となりました。寄付金は、県民運動「ふじのくにCOOLチャレンジ」への支援や、県内小学校における環境教育事業「アース・キッズチャレンジ」の活動費用などに活用されています。



PARTNERSHIP — パートナーシップ



ろうきんは、利用者・会員団体とのパートナーシップや、行政・協同組織などとのネットワークを活かして、地域が抱える様々な社会課題に取り組む「共生社会の実現」をめざしています。また、環境・社会への配慮や企業統治が優れた企業・団体への投資を通じた持続可能な社会づくりにも取り組んでいます。

そして、これら様々な事業活動を担うろうきんの役職員が、やりがいと誇りをもって生き活きと取り組むことができるよう、労働金庫にふさわしい「組織風土」の確立に向けた環境整備を進めています。

全国のろうきん ATMの利用が社会貢献につながる仕組み

全国のろうきんでは、ろうきんATM等の利用に応じて、ろうきんが拠出した資金を社会課題に取り組む団体に寄付を行っています。

新潟・近畿・四国・九州の各ろうきんでは、乳がんの早期発見・早期受診・早期治療の大切さを伝える「ピンクリボン運動」を支援しています。北海道ろうきんでは夕張市の「働く人・生活する人が住みやすい環境へのコンパクトシティ拠点施設整備事業」に（2020年度は各営業店推進委員会が選定した団体への寄付に変更）、北陸ろうきんでは地域への社会貢献として北陸3県の「富山県善意銀行」「北國愛のほほえみ基金」「福井県しあわせ基金」に、沖縄ろうきんでは地域で活動する団体を支援する「ろうきん・わしたシマづくり運動基金」に寄付を行っています。

「ATMを利用する」そんな普段の行動が、大きなやさしさの輪となって、ピンクリボン運動や地域社会づくりなど様々な社会課題への貢献につながっています。



中国ろうきん ろうきんの利用が誰かの笑顔につながるしくみ

中国ろうきんでは、教育ローン等の新規利用、学資積立「ドレミ協奏曲」の新規契約、カードローン「マイプラン」の新規契約または利用限度額の増額件数に応じて、中国5県の「いのちの電話」に寄付を行っています。「いのちの電話」は、電話を通して人々の悩みを聞き、隣人として共に考え、心の支えになっていこうという活動を行うボランティア団体で、主に自殺予防のために活動しています。



四国 ろうきん

はたらく仲間のためにできること 「四国ろうきん1万人笑顔プロジェクト」

四国ろうきんでは、ご利用いただいたローン1件につきろうきんが100円を拠出し、ローン契約者が選択した寄付先（教育関係、子育て支援関係、障がい者支援関係、環境保護関係）に寄付を行っています。2019年度は、のべ6,411人の思いやりが結集し、四国4県の4団体に合計641,100円を寄付しています。



九州 ろうきん

未来をになう子どもたちを応援する 「こども未来応援定期」

九州ろうきんでは、子どもたちを支援する団体を応援することを目的として、2019年4月より社会貢献預金「こども未来応援定期」の取り扱いを開始しています。「こども未来応援定期」は、定期預金作成の店頭表示金利よりろうきん所定の金利（0.1%）を引下げた金利を適用金利とし、その金利の引下げ幅分の利息相当額をお客さまの寄付額とみなして、九州7県の児童養護施設協議会などへ寄付する預金です。



全国のろうきん 行政と連携した求職者の支援



リーマンショック以降、派遣切りや年越し派遣村が大きな問題となった2008年、ろうきんは厚生労働省と連携した「就職安定資金融資制度」を創設し、仕事も住居も失った方に住居確保の資金や当面の生活資金を融資することで、生活再建を支援しました。（現在は受付を終了しています。）現在、全国のろうきんでは、厚生労働省・都道府県労働局・ハローワークと連携して「求職者支援資金融資制度」を設け、国の求職者支援制度による職業訓練受講給付金のみでは訓練受講中の生活費等が不足する方に低利の融資を行うことで、円滑な職業訓練の受講や再就職を支援しています。※「求職者支援制度」とは、①無料の職業訓練（求職者支援訓練）を実施し、②本人収入、世帯収入及び資産要件等、一定の支給要件を満たす場合は、職業訓練の受講を容易にするための給付金（職業訓練受講給付金）を支給するとともに、③ハローワークが中心となってきめ細やかな就職支援を実施することにより、安定した「就職」を実現するための制度です。



出典：厚生労働省ホームページ

全国のろうきん

地域で果たす役割の 可能性を広げる協同組織間連携

労金協会では、国際協同組合同盟（ICA:InternationalCo-operativeAlliance）、および日本協同組合連携機構（JCA:JapanCo-operativeAlliance）に業態を代表して加盟し、協同組合間の連携を深めるとともに、協同組合のパートナーシップを活かして、持続可能な地域のよりよい暮らし・仕事づくりに向けた教育・調査・研究などに参画しています。2019年度は、7月9日に東京有楽町にて開催した「第97回国際協同組合デー」記念中央集会の運営に参画しました。集会には、JCA会員団体役員をはじめ、全国の協同組合関係者、メディア関係者など約450名が参加し、基調講演やパネルディスカッションを通じて、ディーセント・ワークの実現に向けた協同組合の役割などを改めて認識共有し、今後も力を結集していくことを参加者一同で確認しました。



北海道 ろうきん

コープさっぽろ等との連携事業

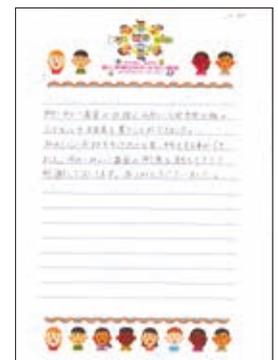
北海道ろうきんでは、1つの協同組合では解決できない課題について複数の協同組合の連携で解決し、持続可能な北海道経済や地域住民の生活向上をめざして、18団体で構成される「協同組合ネット北海道」の設立準備を進めています。すでに、コープさっぽろと連携した「組合員向けの融資キャンペーン」や、18歳以下のお子さまの預金口座開設件数に応じた「コープ子育て支援基金への寄付」、また、コープさっぽろ・JAバンク北海道・北海道ろうきんの3団体で絵本の読み聞かせを行う「えほんわくわくキャラバン」、大学生協と連携した「入学・卒業前の学生に対する口座開設キャンペーン」等により、協同組合間での各種連携を進めています。



沖縄 ろうきん

働く仲間の共有財産 「ろうきん 全労済 働く仲間のゆめ・みらい基金」

沖縄ろうきんでは、困難を抱える働く仲間とその大切な人に寄り添うことはろうきんの原点として、会員団体・県内各労働団体・協同組織組合などのチカラを結集し、「ろうきん 全労済 働く仲間のゆめ・みらい基金」を立ち上げました。養育する子がいる世帯の親などへの就学・就労支援および生活支援や、職業資格取得等にチャレンジする就学生（高校生）への受験費用などの支援に取り組んでいます。



全国のろうきん 投融資を通じた持続可能な社会づくりへの貢献

ろうきんは、会員や勤労者から預金としてお預かりした資金を、勤労者の生活向上のため「住宅ローン」「教育ローン」「自動車ローン」といった貸出金として役立てています。

労金連合会は、貸出金以外の余裕資金を集中し効率的に運用を行っています。その中では、ろうきんの理念に掲げる「人々が喜びをもって共生できる社会の実現」に寄与し、SDGsを達成していくため、本会で制定した「ESG投融資原則」に基づき、投融資行動にあたっては可能な限りESG課題を考慮した取組みを実践しています。具体的には、「ESG投融資推進委員会」の下で、ESG課題のポジティブな評価による投資（グリーンボンドやソーシャルボンド等の債券、ESG優良企業への株式投資、ESGファンド投資等）を実施しており、これらのESG投資残高は2020年3月末現在で677億円となっています。一方、ESGの観点からネガティブな問題が発生した企業への投資適格性の審査も行っています。

労金連合会は、国連が提唱する「責任投資原則」(PRI:Principles for Responsible Investment) に業態を代表して署名しています。また、全国のろうきんは、金融機関の行動指針として策定された「21世紀金融行動原則」(持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則) に署名を行っています。このように、全国のろうきんは、その責任と役割を認識し、持続可能な社会の実現に資するお金の流れをつくりだしていくための取組みを推進しています。



北陸ろうきん より住みやすい地域をめざした全役職員での清掃活動

北陸ろうきんでは、2011年の創立10周年から、全役職員で地域の清掃活動を行っています。全役職員が富山・石川・福井の3県に分かれて、公園や海岸、街中の歩道などの清掃を一齐に行っています。

さらに、赤十字センターと連携した献血活動や街頭献血の呼びかけ、学童野球等のスポーツ行事への主催・協賛、各営業店における様々な地域交流行事を通じて、地域のはたらく人々の暮らしを守る金融機関として、地域に根差した活動を実践しています。



全国のろうきん 労働金庫にふさわしい「組織風土」の確立に向けた取組み

全国のろうきんでは、全ての職員が生き生きと安心して働くことができる環境整備に向けて、働き方改革への適切な対応を含む『労働金庫にふさわしい「組織風土」の確立に向けた基本方針～ディーセント・ワーク・SDGsの実現～』を2019年9月に策定しました。全国のろうきんでは、健康経営、過重労働対策、ハラスメントの根絶、女性活躍推進、ダイバーシティ推進、育児・介護や治療と仕事との両立支援などの具体的な取組内容を行動計画等に落とし込み、推進していくことにより、ディーセントワークとSDGsの実現を図っています。

四国ろうきんでは、2019年に女性活躍推進法に基づく「えるぼし認定企業」の最上位である第3段階に認定されました。





違法伐採がされていない、適切に管理された森林から産出された木材チップを活用して製造された、FSC® 森林認証紙を使用しています。



印刷事業において発生するCO₂ 全てをカーボンオフセット(相殺)した「ゼロカーボンプリント」で印刷しています。



見やすさに配慮した、ユニバーサルデザイン書体を使用し、年齢の差、障がいの有無にかかわらず、誰にとっても使いやすく見やすい、メディア・印刷物である MUD 認定を取得しています。



リサイクルを阻害しない資材だけを使っています。



印刷資材と製造工程が環境に配慮されているグリーンプリンティング認定工場です。



有害な VOC (揮発性有機化合物) を発生させるもとなる石油系溶剤が 0% のインキを使用しています。